

資料 1

アートサイエンスに、明確な定義はない。

なぜならアートサイエンスとは、常に定義や様式が変化し続けながら、個人または集団の中でドライブしていく「運動」ないしは「思想」そのものだからだ。

塚田 有那

ART SCIENCE IS.

アートサイエンスが導く世界の変容

①AKI INOMATA

ファミコン誕生と同時に生まれ、初期のマッキントッシュを小学校で触り、ポケベルを経由して携帯電話で恋愛し、インターネットの隆盛に並走してきた。テクノロジーは驚異的に進化し続け、驚くほど便利になっていく。だが、世の中に暗雲がたちこめているとしたら、何故だろうか。

私はアーティストとして、かき集められるだけの知恵を集め、いま、この状況を自分なりに紐解こうとする。

学問分野の境界に足元をすくわれている場合ではない。自分の身体をもって、この世界を確かめていく。

テクノロジーは上手く使うことさえできれば、心強い味方だ。必要なものは絶望と好奇心。ポジティブさとネガティブさを持ち合わせた知性と大いに議論を交わしていきたい。



Why Not Hand Over a "Shelter" to Hermit Crabs?

②林千晶

理系文系という区分は、いつ生まれたのだろう。数学が得意か不得意かで二分してしまうとしたら、なんとも雑な分けじゃないか。学びの原点は「どうしてだろう」「どうなっているんだろう」という好奇心。そのワクワクに、ラベルも分けもいらない。そんな視点で眺めると、「アートサイエンス」が輝いて見えてくる。異分野ではなく、もともと隣り合わせにあったもの。哲学から宇宙まで、好奇心をエネルギーに、世の中で隠れている原理や真理を突き詰める力。そこから、未来を変える発見が生まれるに違いない。



「Bio Club」ラボラトリー

③真鍋大度

アートとサイエンス。今はまだ発見されていない新しい関係性があるかもしれない。ここ 30 年は同じような問題提起が続いていることをきちんと認識しつつ、新たな道を見つけたい。



「distortion」 Daito Manabe

④ダヴィッドルテリエ

アートとサイエンスは、私にとってはずっと昔から区別できないものでした。最近ではメディアアートがその一端を担うように思われますが、古代ローマやエジプトの時代では、いつもサイエンスを基軸き芸術的な建築物が建てられていましたし、ルネサンス期のレオナルド・ダ・ヴィンチなどは、アーティストでありながら科学者でした。ですから、アートとサイエンスは常に拮抗し合いながら、アップデートを続けていくものなのでしょう。



「VERSUS」 David Lerellier

⑤EVALA

ぼくにとってのアートサイエンスとは、不条理な数式を追求し続けるようなもの。その先には、音楽家ルイジ・ノーノが語ったような、新しいユートピアがあると思う。

「人間の技術の変化の中で、新たにこれまでと異なる感情、異なる技術、異なる言葉をつくりだすこと。

それによって人生の別の可能性、別のユートピアを得ること」



「Score of Presence」 evala

資料 2

NATURE BARCODE (RICE CODE) ネイチャーバーコード(ライスコード)

田んぼアートを QR コードのように読み取り、お米をダイレクトに購入可能。「風景」を「売り場」に変えるアプリ。



TALKABLE VEGETABLES トークابل・ベジタブル

店頭野菜に触れると、野菜が生産者の声でしゃべりだし、自分のことを PR。新しさと面白さを兼ね備えた、店頭プロモーションツール。



PANICOUPON パニックーポン

オリジナルの「360°ホラームービー」を見てもらい、心拍数の上昇に応じて割引クーポンを発行。怖がる人ほど得をする、インタラクティブクーポン。



DIG-LOG デイグログ

世界初、雪かきの運動量を可視化した IoT デバイス。苦痛な雪かきを楽しいゲームへと、エンターテインメント化することに成功。



スダラボ PROJECT より抜粋